

## <子どもを祝福するイエス>

マルコ10：13～16

子どもたちがイエスさまのもとへ連れてこられた。  
周りの雰囲気も明るく賑やかになり、ガラッと変化。

しかし弟子達が叱った。  
それを見て、憤ったイエスさま。何故？

「子どもたちを、わたしのところへ来させなさい。止めてはいけない  
神の国はこのような者たちのものです。」【14節】

絵画『子どもたちを祝福するキリスト』

ドイツの画家 ドイツの画家ルーカス・クラナッハ

- ◆疎んじられ、軽んじられがちな子ども達のように、世の中が、価値を認められないような存在でも、神の愛は注がれているというメッセージがあった。

弟子達が叱ったもう一つの理由

この時のイエスさまの状況・・・ご自分の最期である十字架へ向かっていた。  
イエス様を煩わせたくなかった？！  
子どもたちを祝福するような、悠長な状況ではないという強い思いの現れ？！

- ◆イエスさまは、死期が近づく緊張を抱える時でさえも、子どもたちを歓迎して共に時を過ごしたいという心を持っておられた。
- ◆自己保身的な生き方を優先させた弟子達のあり方を戒めた。

子どもたちは、イエスさまから自分達に流れる愛を感じ取っていた。  
神の国は、このような者たちのものです。【14節】



イエスキリストは子どものどこを見ておられたのだろうか？

自分取るに足りない存在であることを、素直に受け止める謙遜さ

まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。【15 節】

そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。【16 節】

<子育ての3つの基本>

- ①「抱き上げる」のはスキンシップをすること。人を信頼する能力が培われる。
- ②「手を置かれた」というのは、祈ること。どんな時でも「手を置いて」子どものために祈る。果たすべき役割はあるけれど「成長させてくださるのは神さま」
- ③「祝福する」こと。その子を認めて、その子の何かを見つけて褒める。

「幼子のようにならなければ、神の国に入ることは出来ません」

聖書は、クリスチャンを「神の子」と表現している。

- ◆大人になってからも父なる神は、私たちに「神の子」として、抱き上げ、手を置き、祈り、そして祝福してくださるお方。